

吉井川現地視察資料

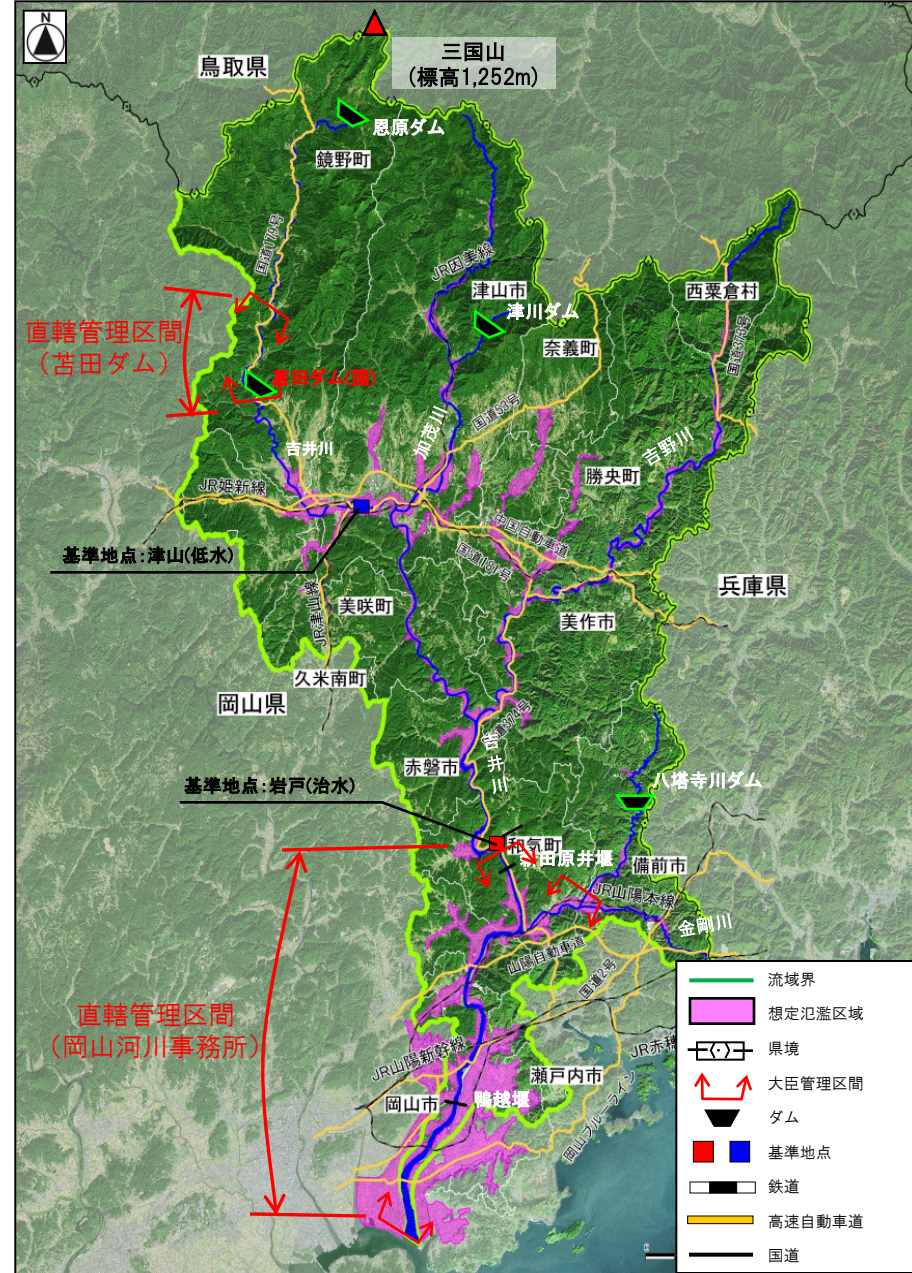
平成25年10月3日

国土交通省 中国地方整備局

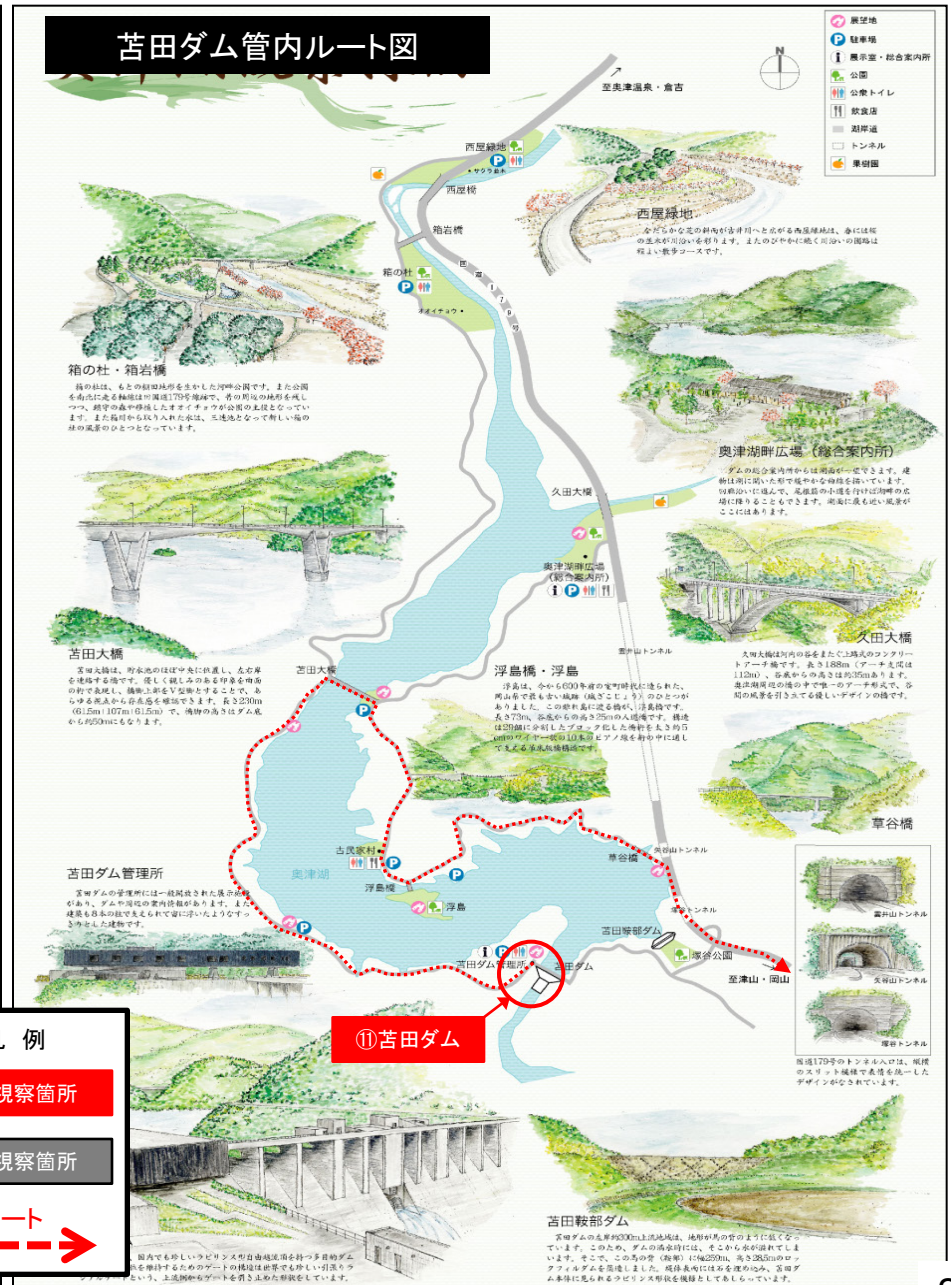
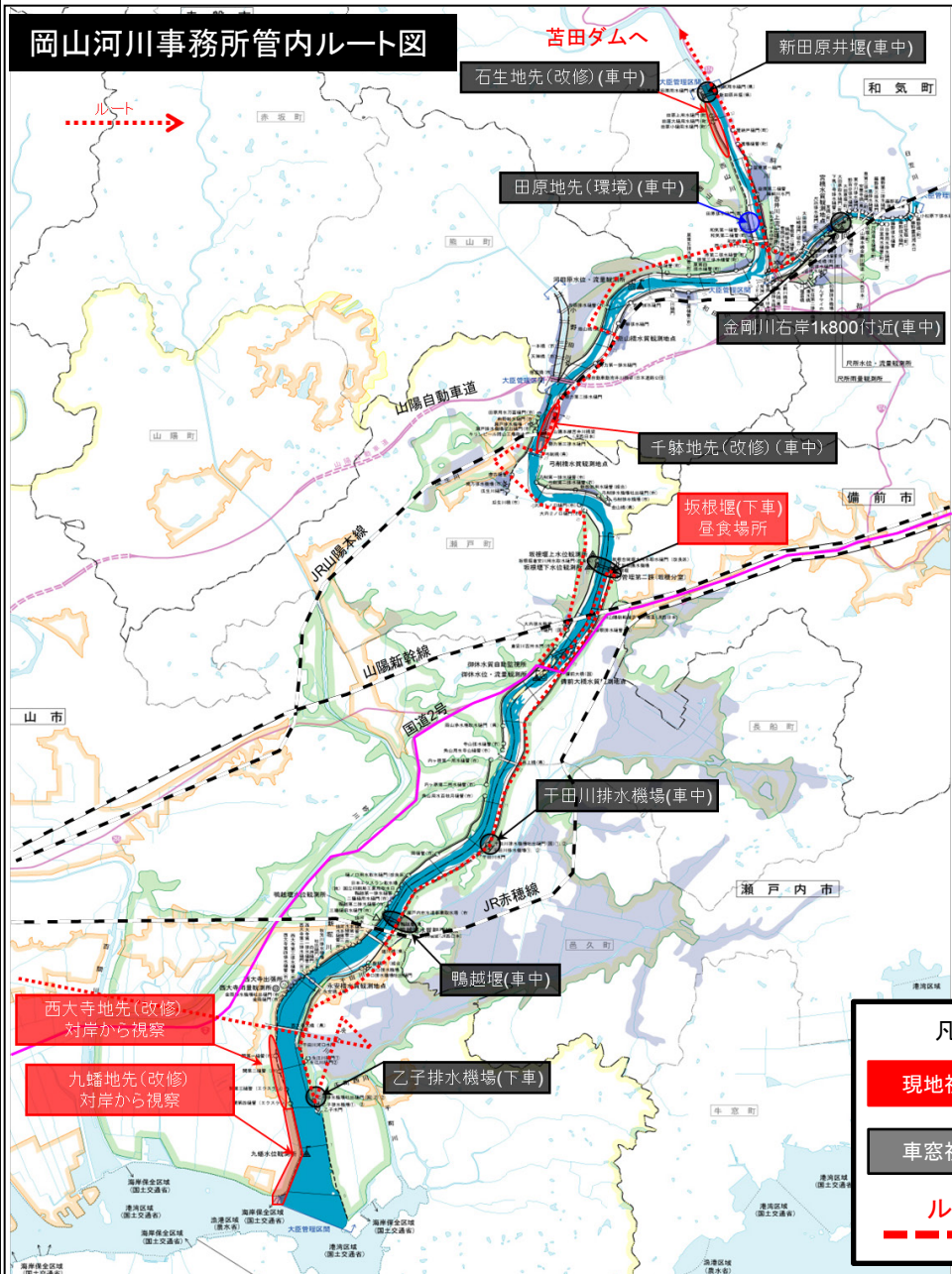
岡山河川事務所

吉井川現地視察行程

番号	時刻	場所	移動・滞在時間
	10:40	会場発	
		(移動)	0:40
①	11:20	高潮堤防(九幡地先、西大寺地先)	下車説明 0:10
		(移動)	0:15
②	11:45	鴨越堰	車中説明
		(移動)	0:05
③	11:50	干田川排水機場	車中説明
		(移動)	0:20
④	12:10	坂根堰	下車説明
		昼食、トイレ休憩	0:40
	13:00	坂根堰発	
		(移動)	0:15
⑤	13:15	環境事業(自然再生)(瀬戸地先)	車中説明
		(移動)	0:05
⑥	13:20	吉井川流下能力不足箇所(千鉢地先)	車中説明
		(移動)	0:20
⑦	13:40	金剛川(右岸1k800付近)	車中説明
		(移動)	0:10
⑧	13:50	環境事業(水辺整備)(田原地先)	車中説明
		(移動)	0:05
⑨	13:55	吉井川流下能力不足箇所(石生地先)	車中説明
		(移動)	0:05
⑩	14:00	新田原井堰	車中説明
		(移動)	0:20
		H10洪水被災復旧箇所(岡山県管理区間)	下車説明
		(移動)	1:00
⑪	15:45	苦田ダム	下車説明
	16:20	苦田ダム発	
		(移動)	1:40
	18:00	岡山駅	



吉井川現地視察ルート図(岡山河川事務所管内・苫田ダム管内)



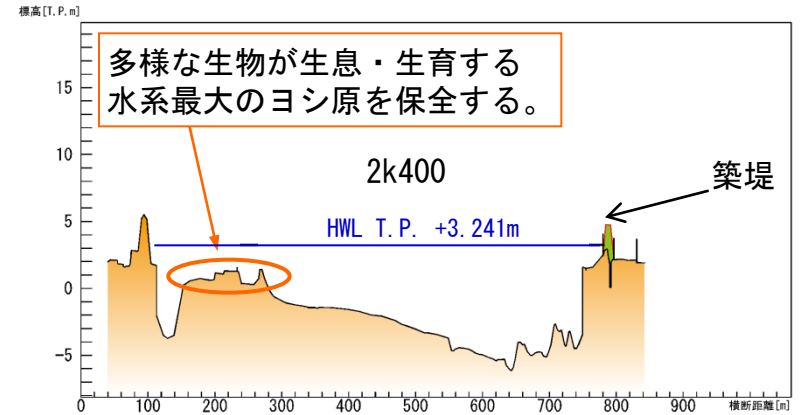
①高潮堤防(九幡地先・西大寺地先)

- 吉井川下流部はゼロメートル地帯が広がり、高潮が越水した場合に甚大な被害の恐れ。
- 九幡地先の高潮堤防は一部を除き整備済
- 西大寺地先の現況堤防は、高さ・幅ともに不足。

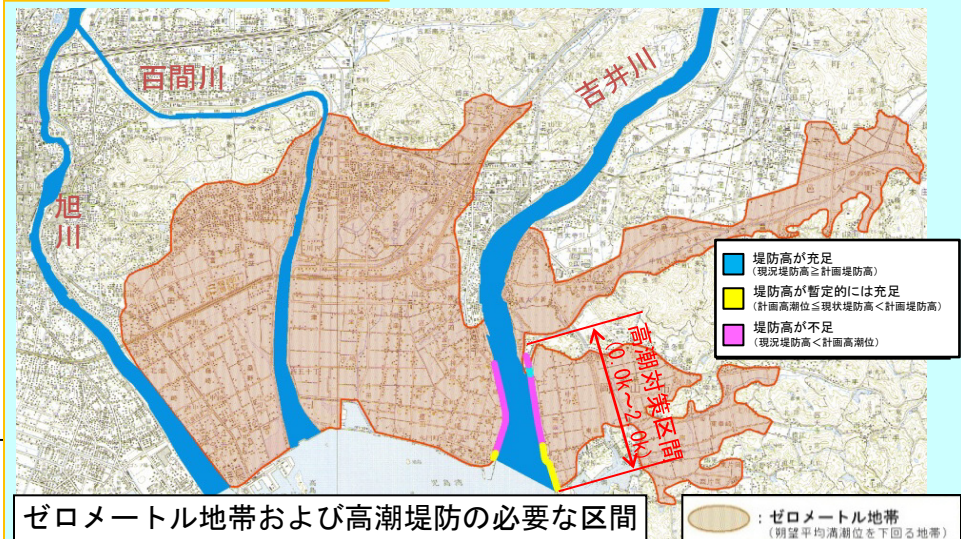


児島湾

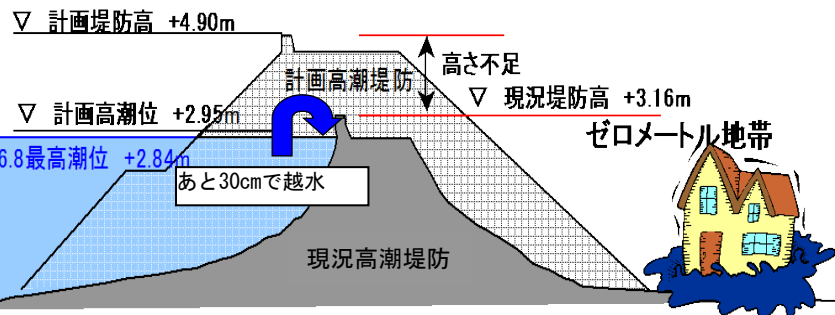
代表箇所における改修イメージ図



高潮災害への対策の現状



ゼロメートル地帯および高潮堤防の必要な区間



高潮堤防概要図

②鴨越堰

- 鴨越堰は鴨越堰は農水、上・工水取水のための取水位確保、潮止が目的。
- 昭和29年、38年の2回の被災を受けて昭和42年に県営災害復旧工事で全面改修。
- 鴨越堰地点では、正常流量（通年概ね4m³/s）を設定。



鴨越堰 (7k400)



目的	取水位確保及び潮止
利水容量	なし
水利用	農業用水、上水、工水取水

樋ノ口用水



二膳樋用水



三膳樋用水



③千田川排水機場

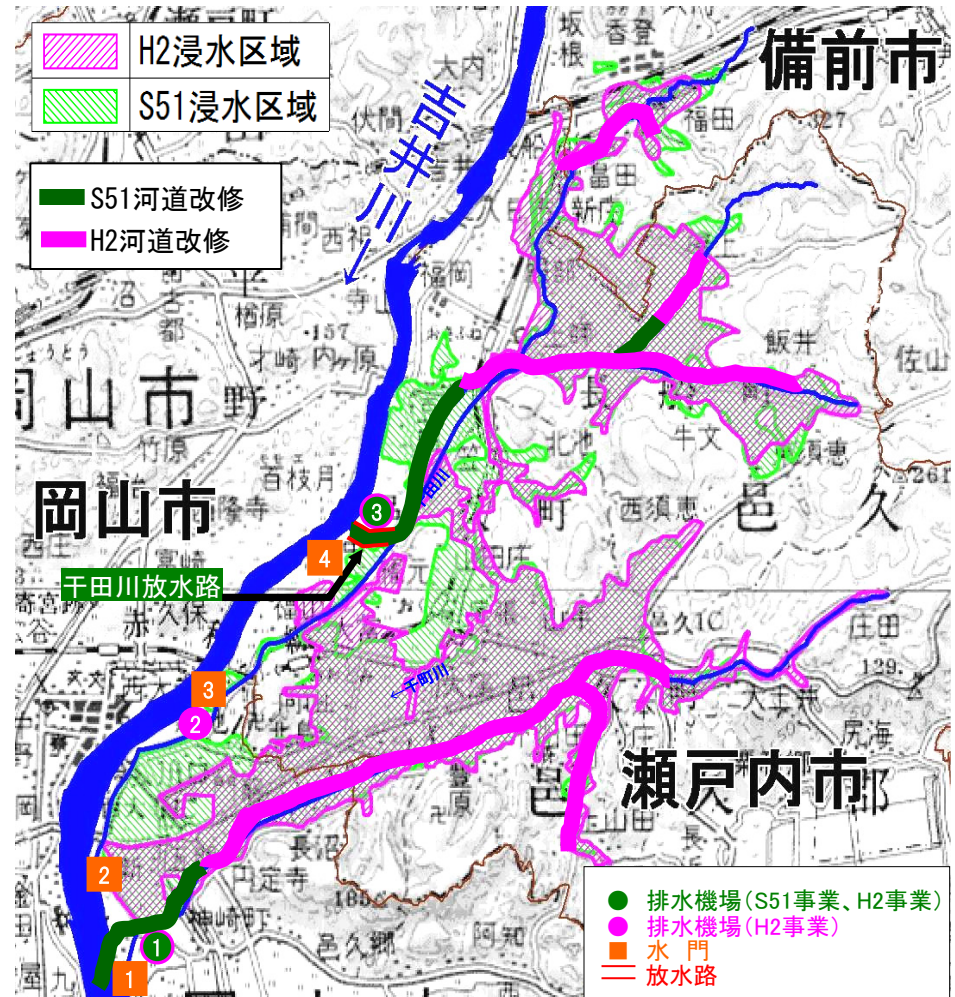
- S51. 9洪水、H2. 9洪水を踏まえ、千田川では放水路整備、築堤・河道掘削等を実施(岡山県)。
- 吉井川本川からの逆流を防止するために水門を整備。
- 排水機場は、実績洪水から家屋の床上浸水を防止するため、30m³/sのポンプを設置済み。

排水機場の諸元

	河川名	排水機場	管理者	既設排水量
①	千町川	乙子排水機場	国土交通省	30m ³ /s
②	千田川	川口排水機場	国土交通省	10m ³ /s
③	千田川	千田川排水機場	国土交通省	30m ³ /s

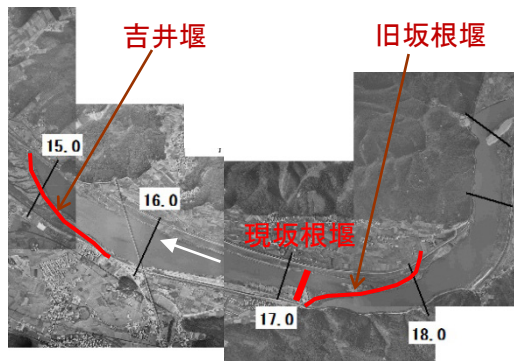
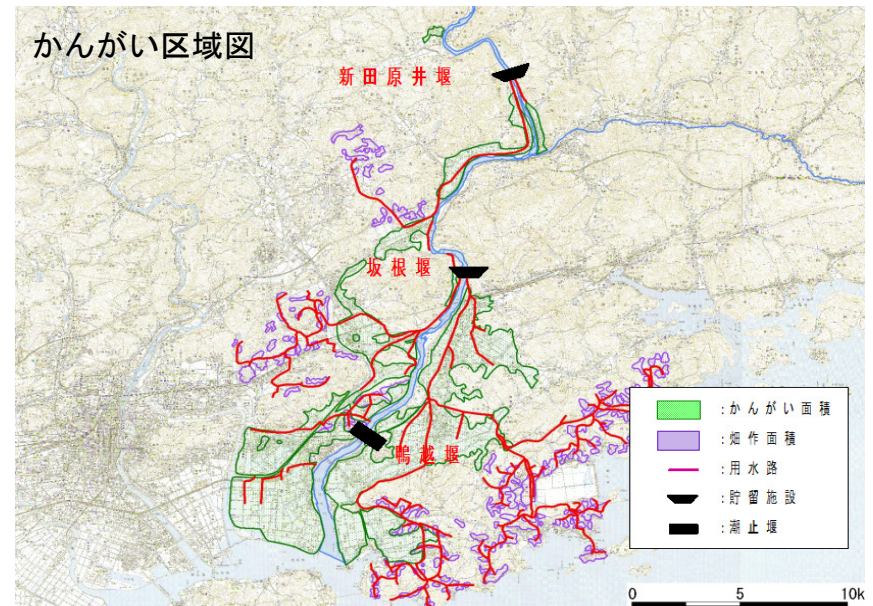
水門の諸元

	河川名	水門	管理者	ゲート型式	高さ×幅×門数
①	千町川	乙子水門	国土交通省	鋼製ローゲート	6.5×15×2
②	千田川	千田川 河口水門	国土交通省	鋼製ローゲート	6.0×11.5×1 + 4.1×11.5×1
③	千田川	豊排水樋門	国土交通省	スルゲート	2.5×2.8×2
④	千田川	千田川水門	国土交通省	鋼製ローゲート	5.3×20×2



④坂根堰

- 坂根堰は、治水（流水の安全な疎通）・維持流量の供給・都市用水（水道用水・工業用水）の供給・農業用取水のための取水位を確保を目的として昭和55年に完成。
- 農業用取水のための固定堰だった旧坂根堰と吉井堰を統合させて可動堰。



【S49年撮影】



坂根堰 (17k360)

目的	治水・利水・農水取水位確保
利水容量	1,600千m3
水利用	農業用水、上水、工水

⑤環境事業(自然再生)(瀬戸地先)

- 国の天然記念物である「アユモドキ」は、かつて岡山県内に広く生息していたが近年著しく減少。
- 吉井川は全国で初めて自然産卵場所が特定され、辛うじて維持されている生息環境を専門家や地域が一体となって保全する取り組みを実施。減少の要因として、隠れ家の減少、工作物による移動の妨げ、外来種による捕食など、アユモドキの生息環境の悪化が考えられる。
- 産卵場整備、堤外水路整備を行い、アユモドキの生息・繁殖環境を改善し、産卵場や移動経路の整備を行うことにより種の保存を図る。



アユモドキはドジョウのなかまで、形や色がアユに似ていることから、この名前がついた。
琵琶湖淀川水系と岡山県の旭川・吉井川水系だけに分布する種です。

整備前の状況



隠れ家の減少

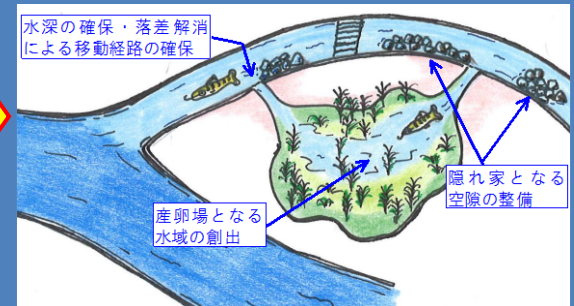


工作物による移動の妨げ



外来種による捕食

整備後のイメージ



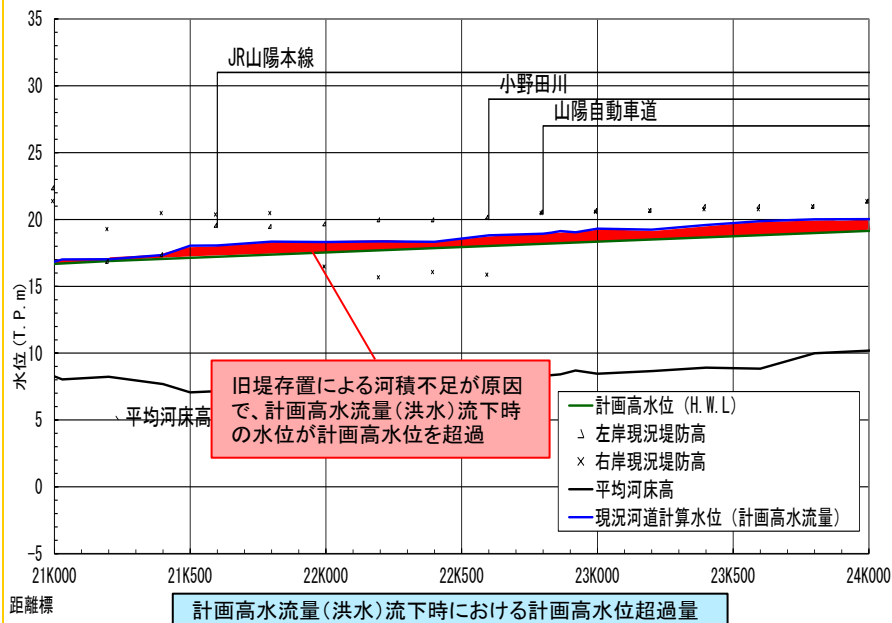
⑥吉井川流下能力不足箇所(千躰地先)

■ 流下能力を高めるため、河積を阻害している旧堤撤去が必要。

対象地区の概要



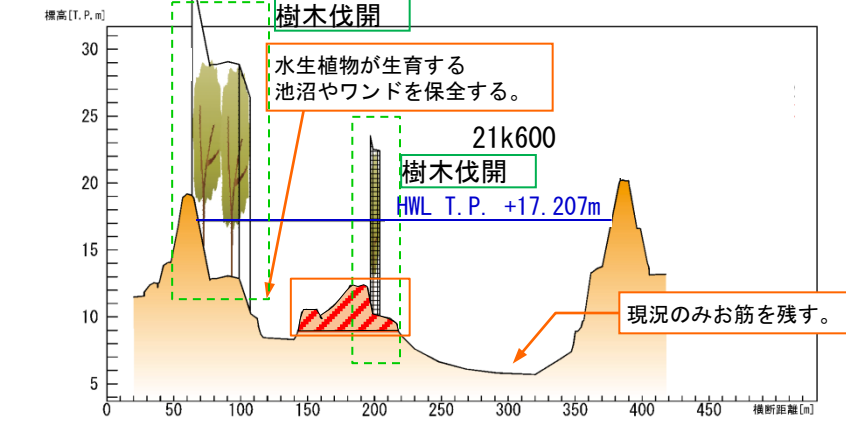
計画高水流量(洪水)流下時の水位縦断面図



計画高水流量(洪水)流下時の浸水範囲



代表箇所における改修イメージ図



⑦金剛川水辺の楽校(左右岸1k400~2k000)

- 金剛川水辺の楽校周辺には、自然のせせらぎがあり、昆虫や魚などの自然とのふれあいができる。
- 金剛川水辺の楽校推進協議会主催の「金剛川こどもの夏!!」等のイベントも実施されており、日常から河川利用の盛んな場所。

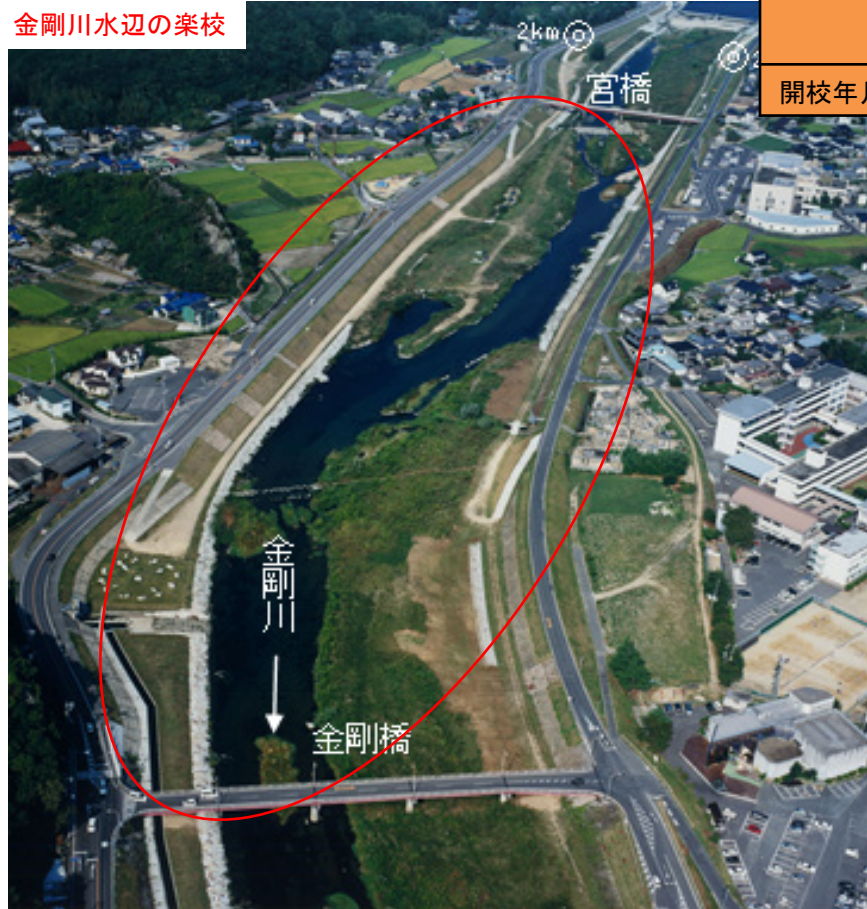
整備内容	やすらぎ広場・ホタル観察広場魚ふれあい広場・自然体験広場
コンセプト	昔の金剛川のイメージを再現し、ホタルが飛び交い、人々が豊かな自然と潤いを感じられる川づくりを目指す
開校年月日	平成12年7月22日



自然体験広場:水辺に近づきやすいよう、緩い勾配で整備している



ホタル観察広場:近隣学校の野外学習の場として活用されている



金剛川水辺の楽校



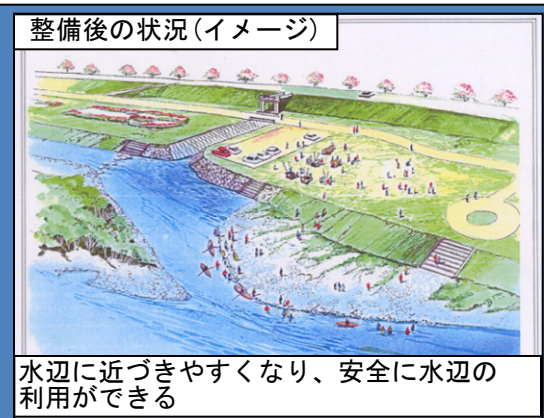
魚ふれあい広場:鯉ヶ淵を創出し魚のすみかとする



イベント時の利用状況

⑧環境事業(水辺整備)(田原地先)

- 田原箇所周辺には、桜づつみ堤防、グラウンドが整備されており、日常から河川利用の盛んな場所。
- 田原箇所からは町おこしのために始められた和文字焼を観覧することができ、多くの人々が高水敷を利用。
- しかし、雑草や雑木が繁茂し河川敷に下りる階段や通路もないため、安全に水辺を利用することができない状況。
- 河川巡視など河川管理機能の向上と水辺利用者が安全に水辺空間を利用できるように、高水敷整正、護岸・階段の整備を実施。



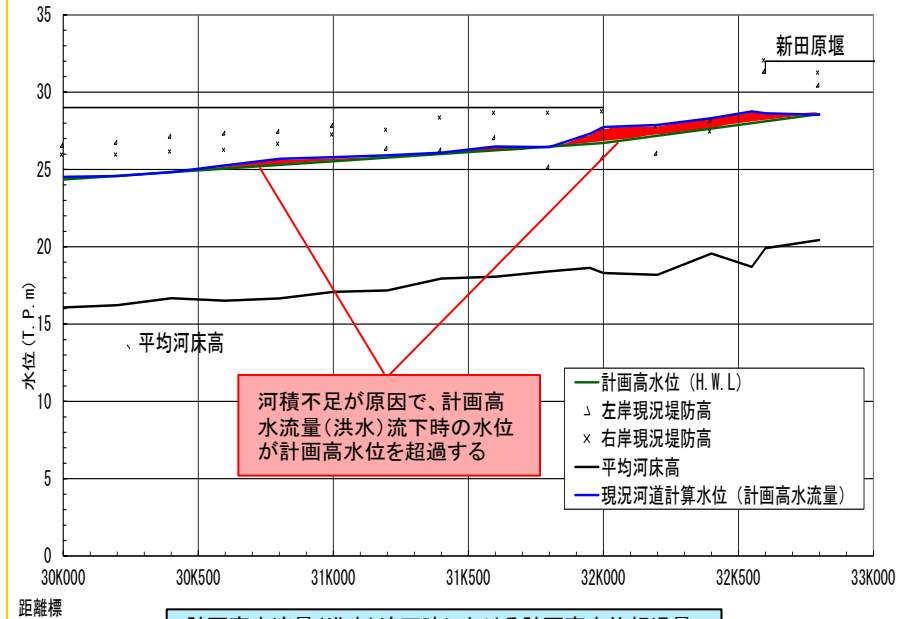
⑨吉井川流下能力不足箇所(石生地先)

■ 流下能力が不足するため、河道掘削、樹木伐開が必要。

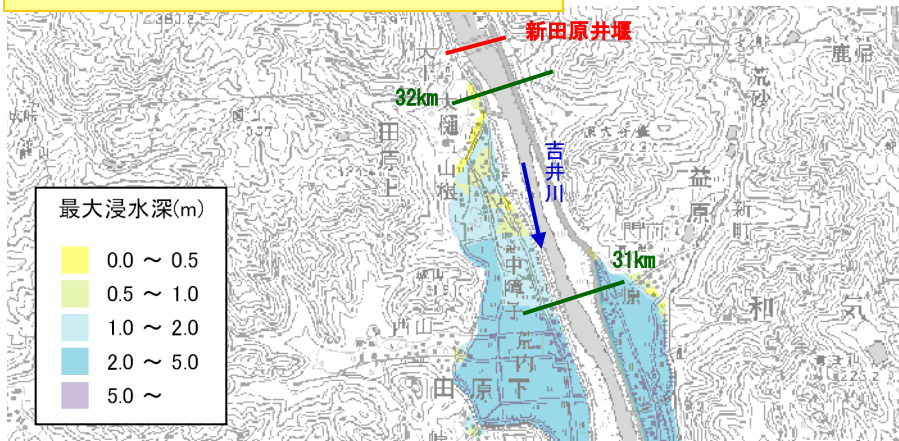
対象地区の概要



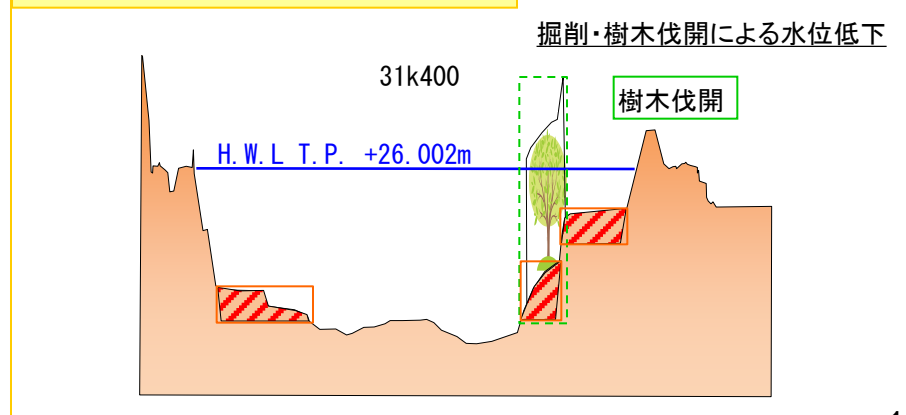
計画高水流量(洪水)流下時の水位縦断面図



計画高水流量(洪水)流下時の浸水範囲



代表箇所における改修イメージ図



⑩新田原井堰

- 新田原井堰は特定かんがい目的として昭和62年に完成した堰。
- 有効貯水量は200万m³で、井堰として全国一の貯水能力を誇る可動式井堰。
- 農家の水田と畑を合わせて約7,000haの用水を供給。



新田原井堰 (32k600)



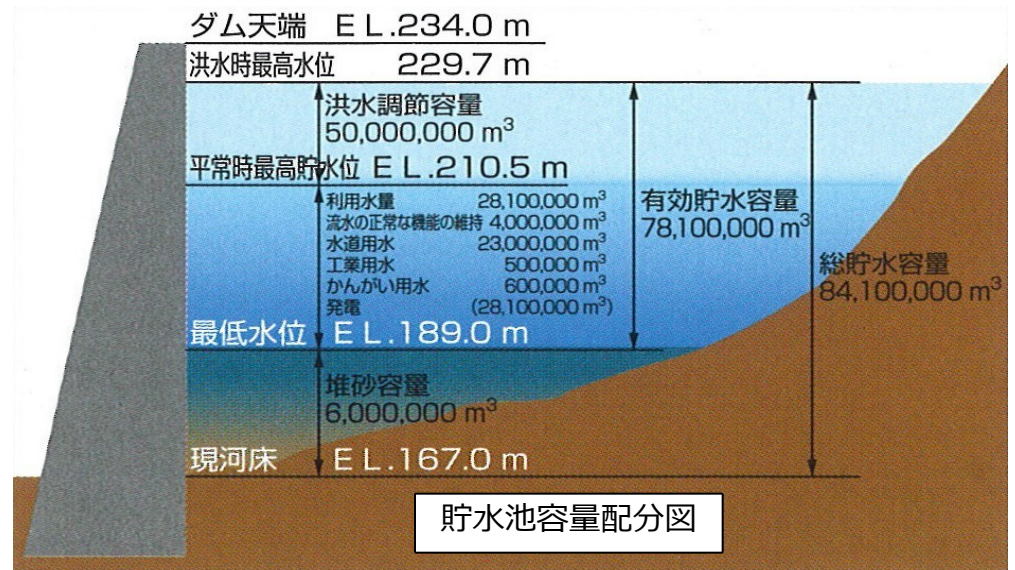
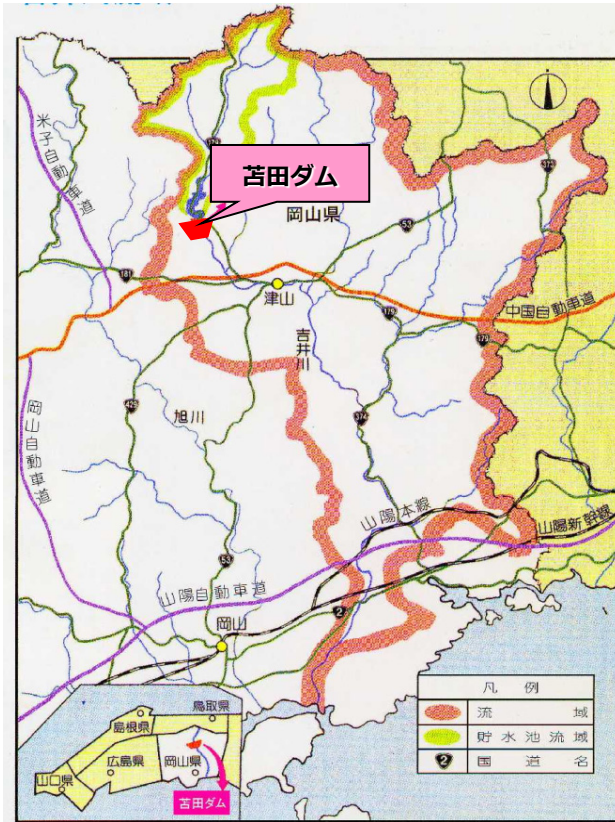
目的	利水補給(農業用水)
利水容量	2,000千m ³
水利用	農業用水、発電

田原用水



⑪ 苫田ダム

■ 苫田ダムは、洪水調節・灌漑・上水・工水・発電を目的として、平成17年に完成した多目的ダム。



流域面積	217.4km ²
型式	重力式コンクリートダム
目的	①洪水調節 ②灌漑③上水 ④工水⑤発電
堤高	74m
堤長	225m
総貯水容量	84,100 千 m ³
有効貯水容量	78,100 千 m ³
洪水調節容量	50,000 千 m ³